

中期ビジョン(5か年計画、令和3年度～令和7年度)

本校が目指す5年後の姿(具体的な目標)

1 学校の現状や課題

明治35年創立の本校は、文と武の両方を重んじる「右文尚武」、飾り気がなく、強く健やかな「質実剛健」、優れた者同士が切磋琢磨し人格を高め合う「玲瓏同氣」の三つを校標とし、今日まで長い歴史と伝統が築かれてきた。この三つの校標と本校独自の「生徒憲章」は、日々の教育活動を支える「不易」な理念となっている。

一方、将来の予測が困難な時代にあって、生徒一人一人が未来の創り手となるため、志高く自ら自己実現を果たそうとする気概を育み、未来を切り拓く人間力や社会に貢献する人材を育成する「流行」としての教育活動は、その重要性を増している。本校における「不易流行」や教育効果の高い学校づくりの充実が求められている。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

高度情報社会の加速、グローバル化の進展、科学技術の発達等は、社会構造・産業構造に変化をもたらし、将来の予測が困難な時代となっている。また、本県は人口減や少子化に歯止めがかからず、ここ由利本荘市、にかほ市もその例外ではない。これからの時代をたくましく生き抜き、グローバルな視野で考え、行動し、あるいはふるさと秋田を支えようとする高い志をもつ人材の育成は、時代の要請であると言える。

3 目指す生徒像及び学校像

◎教育目標

将来の社会を担う人材となるべく、人格の完成と真理の探究に努める心身ともに健全な生徒を育成する。

◎教育方針

- ①未来を切り拓く人間力を高め、社会に貢献する人材を育成する。
- ②高い志をもち自己実現を果たそうとする姿勢を育成する。

上記の教育目標・教育方針の下、本校の三つの校標「右文尚武」「質実剛健」「玲瓏同氣」の具現化としての生徒の育成に取り組む。特に「玲瓏同氣」に示される切磋琢磨し合う集団には教職員も含まれる。生徒同士、教職員同士あるいは生徒と教職員が互いに切磋琢磨し合いながらお互いを高め合っていく場としての本荘高等学校であり続けたい。

なお、「教育方針」の中の「未来」には、生徒一人一人の未来、ここ由利本荘市・にかほ市の未来、ふるさと秋田の未来、そして21世紀という未来、という意味が込められている。「自己実現」には、変化の激しいこれからの時代に主体的に向き合い、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となって欲しいという願いが込められている。

4 5年間で達成を目指す具体的目標

(1) 社会的自立に必要な資質・能力を身につけた生徒を育む。

- ①主体的に学ぶ生徒、学びに向かう力の育成
- ②確かな学力の充実
 - ・大学進学者における国公立大学進学者の割合は、55%以上
 - ・東京大学、京都大学、東北大学、医学部医学科への進学者の確保

(2) 志高く、自主自律の下、心豊かにたくましく生きる生徒を育む。

- ①豊かな人間性を育む教育活動の展開
- ②自己管理能力、自主自律への支援

(3) グローバルな視野で考え、行動できる生徒を育む。

- ①未来を切り拓く態度の育成
- ②校標「右文尚武」「質実剛健」「玲瓏同氣」の具現
 - ・全国規模の探究的コンクール、学生論文等での入賞
 - ・部活動加入率85%以上の維持、複数の部活動の全国大会出場

具 体 的 な 取 組 等

- 1 授業改善を推進し、生徒の学力向上を目指す。
 - ・主体的・対話的で深い学びによる、確かな学力の育成
 - ・思考力・表現力・判断力等の養成による「問い」を發する生徒の育成
 - ・各学力層に対応した授業展開の研究（少人数学習、習熟度授業等の実施）
 - ・授業におけるICTの効果的な活用についての研究
- 2 部活動や学校行事、生徒会活動等を通して生徒の社会性を育む。
 - ・自尊感情や自己有用感の醸成
 - ・他者への思いやり、規範意識を身につけた生徒の育成
 - ・他者と切磋琢磨し合いながら総合的な人間力を高めようとする生徒の育成
- 3 生徒が自分自身を見つめ、夢を叶えるための進路指導を充実させる。
 - ・学習習慣を定着させ、自ら学習方法確立に取り組む生徒の育成
 - ・自ら課題を設定し、その探究に積極的に取り組む生徒の育成
 - ・自己の適性や社会との関わりについて考え、主体的に進路選択をする生徒の育成
 - ・高大接続改革と大学入学共通テストの研究
- 4 地域や家庭、同窓会等との連携を図りながらキャリア教育を充実させる。
 - ・インターンシップ、ボランティア活動等の活性化
 - ・PTA、同窓会等、学校関係機関との連携・協働による地域資源の活用